



# ザレドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

## 呼びかける側

日本赤十字社島根県支部

事務局付部長 澤田 和憲



東日本大

震災から五年と半年。自然は二万人のいのちを奪っておきながら、鎮魂のための時間を私たちに与えてもくれない。それ以降も形を変えながら多くの災害が私たちの上に降ってきた。熊本益城町の体育館、あの狭い廊下に横たわる眉間に皺を寄せ瞑目したお年寄りの顔を思い出す。

日赤はいち早く被災者のもとに駆けつけ、身体と心の痛みが癒されるよう寄り添っています。それはいわば対症的な活動です。もともと災害への備えができないものか。自然の力は途方もなく大きなものですが、少しでも抗う術はないものか。あの体育館のあの廊下を思うとそう考えるのです。

ここ数年日赤は、「災害からいのちを守る日本赤十字社の確立」をテーマに、三つの柱を建てて継続的に取り組んでいます。

を図っています。

次に「被災者の立ち直りを支援する」です。東日本大震災では、国際赤十字から寄せられた海外救援金を財源にして、家電セットを仮設住宅に設置したり、スクーバスや仮設診療所も整備しました。皆さんの仲間の青年赤十字奉仕団員達が被災地の子供たちと泥んこになって触れ合うプログラムを北海道の広大な大地で実施しました。傷ついた心に同じ目線で寄り添えるのは、ボランティアの皆さんです。奉仕団の皆さんに期待されるのは「共感する」という「真の癒し」の活動です。

三つ目は「被災者を減らす」です。市民一人ひとりが災害をよく知り、確りとした備えをすることが大切です。大原則です。「互助・共助」の重要性や救急法等の知恵や技術の普及を更に促進しなければと考えています。青少年赤十字では、「まもるいのち ひろめるぼうさい」という「災害に負けない人創りプログラム」を積極的に進めています。東日本大震災以後



熊本地震

新しく生まれたこのプログラムに島根県支部では大きな期待を寄せています。少し時間はかかりますが、着実に人は災害に強くなります。そしてもう一つ、「互助・共助」の核となる「献身的な愛情」を確かなものにしておくことです。赤十字の大きな役割、「人間なら誰の心にもあるはずのものなのに、その心でものを感じ、考え、行動することが難しい私たち人間に、熱心に呼びかけて思い出させてくれること」皆さんは、「呼びかける側」に立っています。みずうみの活動一つひとつがその「呼びかけ」なのです。もともと仲間づくりをして一人でも多くの人に皆さんの活動を届けてください。よろしく願います。

## 総会

平成二十八年四月十四日(木)

参加支部三名、団員二十四名

・大塚委員長からみずうみ赤十字奉仕団設立六十周年を迎え、今日に至る関係諸氏、諸先輩の支援と尽力への謝意、並びに「歴史を糧とし信条を胸に、目の届かない隙間も照らし奉仕の心をとどける歩みを進めたい」の活動方針が示されました。

・布野事務局長より、当団設立六十周年の祝辞と発展へのエールを頂きました。引き続き、妹尾伊都子、神田照子、太田裕子の三氏が特別社員章を受章、表彰されました。

・前年度の事業・会計報告、本年度の事業計画と予算、並びに新役員が承認され、新入団員も併せて紹介がありました。



## 講演を聞いて

原田 美智子

総会の後で「カンボジアの子供たちの幸せを願って」の演題で、松江市の松本さんご夫妻の講演を聞きました。松本成さん、淑子さん(団員)ご夫妻は、退職後にアンコールワットを巡るツアーに参加され、その折にカンボジアの小学校教育の劣悪な現状を見て支援の必要を強く思い、平成二十四年「バンテアイスレイ小学校を支援する会」を仲間と共に立ち上げその世話役として活動していらつしゃいます。

講演の冒頭で松本さんから「皆さん



講演



バンテアイスレイ小学校の  
子供たち

はカンボジアについて何を思い浮かべますか」の問いに、アンコールワット、地雷までは考えましたが、三番目が大きな課題の「貧困」だそうです。三十年にも及ぶ内戦のせいで、ことに農村部の貧困の度合いはひどく、そのしわ寄せが子供たちの教育に及んでいるのです。大人も字が書けず読めないため、主な死亡原因に交通事故(交通標識が読めない)エイズ(保健意識の欠如)があります。

そこで、松本さんたちの支援活動は金品を送るのではなく「命を守るための教育」として、自立するための援助を目指しておられます。その活動の主な事業は現地で不足している文具類、衣類を支援者から募り、島根県立大松江キャンパスの学生を含めた会員有志で荷造りして、バンテアイスレイ小学校、貧困農村地域、孤児院に年間約一〇〇〇キロを送付するもので、その輸送費用は支援者の会費で賄っているそうです。

また、毎年支援会員約二十名でバンテアイスレイ小学校などに赴き、歯磨き指導を行うなど、その折々の現地の状況を確認しながら一五〇名の会員と共に支援活動を続けておられます。

松江の地から遠くカンボジアまで支援の手をさしのべていらつしゃる松本さんご夫妻に感服するばかりです。



# 熱中症だついで

團野 和子

六月二十二日(水) 参加十五名

みずうみ赤十字奉仕団の研修として赤十字救急法指導員本田坦<sup>ひろし</sup>氏より熱中症の症状や手当などについて研修を受けました。

熱中症とは「暑熱環境にさらされた」という条件が明らかで、熱、痙攣、熱失神、熱疲労の症状があれば熱中症の疑いがあるそうです。

私達は、日頃のニュース等々で熱中症という言葉をよく聞きます。熱中症にならない為に、水分の補給をこまめにする事の大切さは知っているつもりでした。しかし熱中症とはどんな条件の時、どんな症状が出たら疑ったり、正しい手当の仕方をすれば良いのか、知らないことばかりでした。本田指導員より、とても分かり易い例を挙げながら、熱中症の症状と素早い手当により重症化を防いだり、症状により、た



包帯法も学習しました

めらわずに救急隊の要請をするこ

との大切さも学びました。そしてなによりも大切なことは熱中症にならない為の予防策を知っていて予防努力をすることだと知りました。

まだまだ暑い日が続きます。身近な人達にも学んだことを教えてあげ、一人でも多くの人が熱中症にならない様に事故防止に繋がれたらと思います。

## 症状

・めまい、こむら返り、立ちくらみ、倦怠・脱力感、頭痛、吐き気、嘔吐、意識障害、大量の発汗、手足の運動障害、高体温がみられる。

## 手当

・風通しのよい日陰や冷房の利いた室内に避難、締め付けている衣類等を緩める。  
・水分、スポーツドリンクや食塩水を補給する。  
・出来るだけ早く、水や風で体を冷やす。氷嚢などで頸部、腋の下、股関節部の下の血液を冷す。

## 予防

・こまめに汗を拭く。  
・こまめに水分補給をする。  
・運動で暑さに耐える体を作る。  
・疲労、睡眠不足、肥満、慢性疾患等に留意する。  
・高齢者は充分注意する。  
・熱中症は、夏ばかりではないことに留意する。

## 参考

・経口補水液を作る。  
水・1リットル、砂糖・大さじ4杯半 塩・小さじ2分の1



古布ふきんづくり  
ダンボール 4箱できました



「枇杷」  
浜田光代・吉岡信子

## 平成28年度新役員

委員長	大塚 良子	地区委員	青木八恵子
副委員長	吉岡 信子	〃	太田 裕子
〃	太田 裕子	〃	大塚 良子
書記	松本 淑子	〃	梶 啓子
会計	青木八恵子	〃	門脇 芳子
監査	浜田 光代	〃	金織 玲子
〃	妹尾伊都子	〃	佐藤 信子
幹事	善波 京子	〃	妹尾伊都子
〃	漆谷 栄子	〃	團野 和子
顧問	荏田 和子	〃	吉岡 笙子
〃	門脇 芳子	〃	吉岡 信子
〃	福岡 芳枝	〃	大和 友子
〃	山本 寿子		



## みずうみ奉仕団と私

石倉純子

みずうみ赤十字奉仕団は、全国のみならず世界的に、災害を受けられた方々に、被害の多少にかかわらず、直ちに支援されていく活動に賛同し、新谷委員長さんの時に入団しました。活動や研修が平日にあった為、事情があつて、あまり参加できませんでした。そのような中でも、総会に出席した時、信条を唱和し、団歌を斉唱した時、

## みずうみ奉仕団の

## 団員となつて

池田裕子

「日々の暮らし以上にかげがえの無いものなどない」  
今放映中のNHKの朝の連続テレビ小説で、主人公と姉ちゃんと共に、雑誌「暮らしの手帖」を創刊した花森安治の言葉です。

みずうみ赤十字奉仕団に入団させていだいて十ヶ月、私はこの言葉に深い共感を覚えます。

松江赤十字病院でのボランティア活動では、介助を必要とするお年寄りや、病と闘う患者さんを目にし、総会では、松本成氏の講演により、貧困にあえぐカンボジアの子供たちの実状を知りました。何げない日常の暮らしを普通に行えない人々が世の中には大勢いらつ

の、胸が熱くなる感動を、今も覚えております。  
また、新潟地方の大災害の時は、大型店で店長さんの了解を得て募金活動をして、再興への資金として送り出した。

戦争犠牲者慰霊塔清掃と供養にも参加しました。お国の為、兵士として参加し、若くして尊い命を失われた方々の冥福をお祈りしました。その方達を思う時、私は戦争は絶対反対です。信条にある通り、全ての人びとが手をとりあつて、みんなが安心して日々を生活していける世界の平和と安全を願っております。

しゃるのだと、今さらながら実感しました。

今まで私が、テレビ、新聞等で知っていたながらも、どこかよそ事のように感じていた国内外の苦難の中にある人々に心を寄せ、奉仕の輪を広げようと活動が続けてこられた先輩の皆様、中には直接関わりを持ち、支援活動を行っている方もいらつしやることを知り、感銘を受けました。

ご縁をいただき、みずうみ奉仕団の一員に加えていただいた事で、私も少しずつ助けを必要とされている方々の声に敏感になってきたように思います。これからも、さまざまな奉仕活動や交流会に参加させていただく中で、もっと視野を広げ、感性を磨きたいと思っています。

そして、先輩の皆様にご指導をいただきながら、皆様とともに、人々の日々の暮らしが、おだやかなものとなるようお願い、ささやかでも自分にできる事をさせていただきたいと考えています。



7/19 火

親睦会



6/22 水

古布ふきんづくりと救急法の参加者





団員交流親睦会

## 忌部浄水場を見学して

松本淑子

七月十九日(火) 参加十六名

小学校の頃、なぞなぞで「ひねると、ジャー。なーんだ？」と言っていたものです。答えは水道。当時カランから出てくる水は便利で貴重なものでした。今では手を近づければ水が出る文明の利器にも慣れ、あって当たり前のように水の使い放題。今回忌部浄水場見学をしていかに多くの行程を経て水が供給されるかを知り、安全で美味しい水を届けようと二十四時間体制でたゆまず努力されている浄水場のスタッフの方に頭が下がり、水の無駄遣いを恥じる思いでした。

「浄水場のしくみ」についてのビデオを視聴した後、浄水と給水の現場を見学しました。

\*大谷・千本ダムの水は導水管を通して着水井にたまる

\*量水池で量を調節された水は急速混和池で濁りや細菌を固める薬を入れてかき混ぜる

\*フロック形成池で濁りや細菌をフロックという固まりにする

\*フロックは沈殿池で沈み、水と分離される  
\*緩速ろ過池で濁りを除いた水を微生物の働きで綺麗な水にする

\*塩素滅菌してできた水を浄水池にため、山の上の配水池から各家庭に送る



## 照り焼きチキン

## 材料

鶏もも肉……………1枚  
 ① 醤油……………大さじ2  
 砂糖……………大さじ2  
 おろししょうが ……適量  
 ごま油……………小さじ1  
 片栗粉……………小さじ1/2

## 作り方

① ①を肉にからめて、皮を下にしてラップをしてレンジで7分残ったたれをかける

## おからの煮物

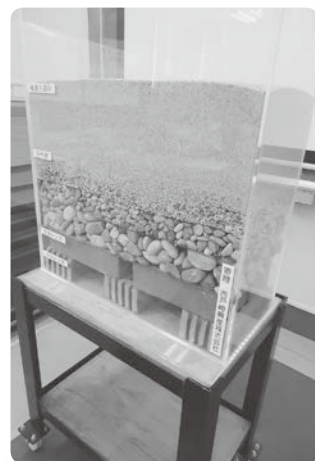
## 材料

① おから……………150g  
 豚ミンチ……………150g  
 にんじん……………60g  
 しいたけ……………5～6枚  
 だし汁……………250cc  
 砂糖……………大さじ3  
 醤油……………大さじ2  
 塩……………小さじ1/2  
 サラダ油……………大さじ1

ねぎ……………100g

## 作り方

① ①を全て混ぜてレンジで6分、取り出して一度混ぜてからもう一度レンジで6分。ねぎを入れて混ぜる



緩速濾過の仕組み

沈殿池のフロックや緩速ろ過池の細菌や濁りで目詰まりした砂は、池の水を抜いて掻き出して処理し、畑やゴルフ場の土として再利用されます。丁度この日、緩速ろ過池で砂の掻き出し作業がされていて貴重な場面を見せてもらいました。

このような行程を経て作られる松江の水は「縁の水」(ペットボトル)として売り出され今年もモンドセレクション金賞を受賞しました。



忌部浄水場

子供の頃から何故、水は忌部から送られるの?と不思議でした。約一〇〇年前英国のバルトンさんがこの地を訪れ、忌部の地形が飲み水を作るのに適していることを発見し、大正七年ここに松江の浄水場がスタートしたそうです。その当時の建造物の一部がまだ遺されていて土木学会遺産となっています。

りよ  
たあれこれ熊本地震災害  
義援金募金活動松江市ボランティア  
連絡協議会へ協力

四月三十日(土) 十時十二時

松江市ボランティア連絡協議会の呼びかけにより七十四名が参加、松江城内三カ所で募金活動を行いました。「みずうみ赤十字奉仕団」からは松本(淑)、吉岡(笙)、太田(裕)団員が参加。募金十四万三千八百五十六円が日本赤十字社へ寄託されました。

## みずうみ赤十字奉仕団

五月八日(日) 世界赤十字デー

四月十四日の夜と十六日、二度の震度七という未曾有の大地震が熊本地方を襲いました。その後も、震度六、五、四…と、千百回以上の治まる気配もない余震に被害は増大し、不安に怯える被災者の方々に励ましの心を届けたいと願い、急遽、対人地雷犠牲者救援募金を熊本地震災害義援金街頭募金に切替えました。人々の関心は高く、地域、団体からの委託や、わざわざ駅頭へ出向いての団員の募金も加わり、十万千八百四十九円を、同日、日赤島根県支部へ寄託することができました。

また、六月二十二日(水)、特別義援金より三万円を日赤島根県支部に寄託し、被災者にお届けしました。



震災の時に生まれ  
1歳になったナオキ君

## 赤十字ワールドニュースより

ネパール地震から一年

昨年四月二十五日、死者八千八百五十七人、全半壊家屋八十八万戸の甚大被害を被つてから一年、日赤は寄せられた二十億円の救援金を基に十四村の仮設診療所の再建支援を担当、完成後引き渡しました。山間部の診療所は人々の健康を支える重要な拠点です。被災者に安堵の笑顔が戻り、子供に日本名をつけるのがブームになっています。今後は、住宅再建、生計、教育支援などを予定しています。



## あとがき

三月に六十周年記念号をお届けした後、四月に熊本で震度七の大地震、その後も度重なる余震、そしてそれに追い打ちをかけるような集中豪雨、大雨は日本中至る所に被害を与え、大雨は日本中至る所で考えられないような痛ましい悲しい事件が次々と起こり、多くの人命が失われました。

有難いことに私達は、穏やかに生活出来ていることに感謝しなければなりません。

今号は、澤田部長に巻頭言をお願いしました。総会の後の講演では、松本成氏に「カンボジアの子供たちの幸せを願って」と題してお話していただきました。七月の交流親睦会の様子もご報告しております。

今年の夏も記録的な暑さが続きましたが、皆様お元気でしたら幸いです。夏は、皆様お元気でいらつしやいましたでしょうか? やつと涼しくなってきました。夏の疲れをとりたいながら、さわやかな季節をお過ごし下さい。

(大和)

## ザレッドクロス みずうみ第四十一号

平成二十八年九月三十日発行

発行者 松江市内中原町四十番地

日本赤十字社島根県支部内  
+ みずうみ赤十字奉仕団  
委員長 大塚 良子編集委員  
(〇八五二) 二一 四二三七

◎太田 裕子・大和 友子

梶 啓子・原田美智子  
天野 仁美

印刷所

(有) 太陽平版  
(〇八五二) 三八一八〇五八